

2 充実した人生を送るための 生涯学習の推進

- 【1】社会教育委員会費
- 【2】家庭教育推進費
- 【3】各種団体育成指導事業
- 【4】青雲閣管理運営費
- 【5】成人式開催費
- 【6】音楽鑑賞会開催費
- 【7】音楽教室開催費
- 【8】青少年健全育成事業
- 【9】ディスカバー滑川ふれあい事業
- 【10】男女共同参画推進事業費
- 【11】学校文化施設開放事業
- 【12】社会教育活動総合事業費
- 【13】心豊かなまちづくり推進事業費
- 【14】地区公民館活動推進費
- 【15】地区公民館整備事業
- 【16】青志会館管理運営費
- 【17】働く婦人の家管理運営費
- 【18】図書館運営費
- 【19】子ども図書館管理運営事業
- 【20】本とのふれあい推進事業
- 【21】俳句教室開設費
- 【22】市美術展開催費
- 【23】文化財保存調査費
- 【24】ネプタ流し継承事業費
- 【25】郷土芸能活性化事業費
- 【26】博物館管理費
- 【27】博物館運営費
- 【28】展覧会等開催費
- 【29】子ども科学教室開催費

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		社会教育委員会費		担当部署		教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項	04	社会教育費
	010103				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	社会教育委員
---------	--------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市教育委員会の諮問により、社会教育委員会を開催し、委嘱した社会教育委員から諸計画について意見をいただき、事業実施の指針とする。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名		単位	27年度	28年度	29年度
社会教育委員会の実施回数	目標	回	3	3	3
	実績		3	3	3
	達成率		100%	100%	100%
	目標				
	実績				
	達成率				

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
年3回(5月、11月、2月)の社会教育委員会により、生涯学習課とスポーツ課の事業説明や事業報告を行い、社会教育委員から質問や意見等を事業の参考とした。事業数や協議事項から年3回の開催が妥当と考える。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	239	160	200
計	239	160	200

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	滑川市の社会教育の推進のため、有識者の意見を伺うことは必要である。
活動内容の有効性	一週間前に資料を郵送するなど、一回一回の委員会を充実させる手立てが必要である。
執行方法の効率性	社会教育法及び市条例により規定されており、市主催以外の方法はない。
公平性	委嘱している社会教育団体代表者に偏りはない。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	それぞれの立場から幅広い視点でご意見をいただき、事業の方向性を見出す上で大変役立っている。 開催時期・時間帯については再検討すべき部分もある。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	委嘱する委員の個々の事情を加味し、委員会の招集を行う。
------------	-----------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		家庭教育推進費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	子どもを持つ親
---------	---------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
家庭教育の大切さを伝え、理解してもらうことを目的とした「子育て講座」を小学校に入学する児童の保護者を対象に開催する。また、学習参観日等に講師を派遣し、保護者を対象に「親を学び伝える学習プログラム」を利用したグループワークを取り入れた「親学び講座」を小学校等で開催する。平成24年度から幼稚園・保育園等から希望した園の中から2園のみ「親学び講座」を実施し、平成29年度は3園で実施。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
子育て講座開催数	回	目標	22	22	22
		実績	21	21	23
		達成率	95%	95%	105%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
県で作成している「親を学び伝える学習プログラム」を利用し、就学時検診の際に実施することにより、高い参加率を見込む。幼稚園・保育園等においても実施する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	195	182	184
計	195	182	184

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	近年の核家族化により、家庭教育の必要性は高まっており、行政が主体となり実施すべき事業である。
活動内容の有効性	事前打ち合わせは、市教委が調整し、担当者も出席する。充実した内容になるよう努めている。
執行方法の効率性	県のパンフレットを利用するなどして、必要最低限のコストで事業を実施している。
公平性	すべての対象者に無料で事業を実施しており、公平である。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	A	必要性が高い事業である。より多くの保護者が参加できるよう、今後も工夫していく必要がある。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	他市町村の取組み例を積極的に幼保小中へ情報提供し、内容の更なる充実を図る。
------------	---------------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		各種団体育成指導事業	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算 費 目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	滑川市連合婦人会・滑川市児童クラブ連合会
---------	----------------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
地域のコミュニティの醸成や新たな担い手の育成のため、市内の社会教育団体に助成するもの

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
連合婦人会会員数	人	目標	100	110	110
		実績	101	101	101
		達成率	101%	92%	92%
児童クラブ連合会会員数	人	目標	2000	2000	2000
		実績	1748	1728	1728
		達成率	87%	86%	86%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
地域のコミュニティの醸成や新たな担い手の育成のため、市内の社会教育団体に助成するもの

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	320	320	320
計	320	320	320

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	コミュニティの希薄化により、社会教育団体の役割は増しており、助成することは必要である。
活動内容の有効性	コミュニティの希薄化などにより単位組織が減少傾向にあり、組織化が難しくなっているが、活動自体は活発である。
執行方法の効率性	どちらも営利目的の団体ではないため、助成により活動をサポートすることは有効であり、必要である。
公平性	どちらも市内全域を対象とした組織であり、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	コミュニティの形成・醸成のため、社会教育団体の活動に助成することは必要である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	両団体と連絡を綿密に取り、情報提供・協力体制を築いていく。
------------	-------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		青雲閣管理運営費	担当部署	教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計 01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款 10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項 04 社会教育費
	010103			目 05 社会教育施設費

事業の対象

誰・何に対して	(財)滑川市青少年婦人研修センター → 東福寺野自然公園研修センター(H25.10.1~)
---------	---

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民の青少年の健全育成を図ると共に、市民の生涯学習の拠点としての機能を充実させる。 また、平成25年度から指定管理者制度の導入により、(一財)滑川市文化・スポーツ振興財団を管理者とし、事業の継承・利用拡大を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)				
指標名	単位	27年度	28年度	29年度
施設利用者数	人	目標 4600	5000	5000
		実績 4968	4881	5550
		達成率 108%	98%	111%
		目標		
		実績		
		達成率		

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
日帰りの利用だけでは実績・収益ともあまり見込めないため、小・中学校や企業等の団体に宿泊利用の営業活動を行ってもらい、利用率を上げる。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	15,320	16,255	19,455
計	15,320	16,255	19,455

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市民の青少年の健全育成を図ると共に、市民の生涯学習の拠点として必要である。
活動内容の有効性	順調に成果指標を達成している。
執行方法の効率性	青少年の健全育成などの教育的要素を持っており、類似事業(施設)との統合などによるコスト削減は困難と考える。
公平性	青少年・婦人に限らず、幅広い層の市民が、スポーツ及び生涯学習にかかる活動の場として利用している。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	民間の施設と競合しないよう、社会的な役割を考えつつ、多くの市民に利用してもらうよう努力している。 耐震補強の必要があり、老朽化により突発的な修繕工事が発生していることから、早急に今後の整備方針を決定する必要がある。

よ

改革・改善策

具体的な改革・改善策	平成25年より「滑川市東福寺野自然公園研修センター」として、「(一財)滑川市文化・スポーツ振興財団」が指定管理者を行っている。たくさんの方々に利用してもらえるよう、費用面、運営面など、総合的に勘案し、魅力ある施設に整備する必要がある。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		成人式開催費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章・ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	新成人
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
新成人ひとりひとりを祝福し、成人となった自覚を促す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
参加人数	人	目標	350	350	375
		実績	296	295	305
		達成率	85%	84%	81%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
新成人による実行委員会を開催し、新成人自身による成人式である旨の自覚を促す。

(単位:千円)

決算額				
	27年度	28年度	29年度	
直接事業費	632	685	628	
計	632	685	628	

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	新成人を祝い、社会人としての自覚を促すことは必要である。
活動内容の有効性	毎年1月の3連休の中日に開催し、遠方の方にも参加しやすいよう配慮している。
執行方法の効率性	内容については新成人の実行委員会で話し合い、必要最低限の経費で行われている。
公平性	すべての新成人を対象としており、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	新成人に自覚を促し、節目の式典として成人式を行うことは必要である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	実行委員会は、地元在住の新成人を中心に構成する。(連絡がとりやすく活動しやすい)
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		音楽鑑賞会開催費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	市内音楽団体・全市民
---------	------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
芸術文化の振興を目的として市内音楽団体の支援を行う。 豊かな心の育成及び表現力、感受性の向上を目指し、親子向けの音楽鑑賞会を開催する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
音楽協会定期演奏会開催	回	目標	1	1	1
		実績	1	1	1
		達成率	100%	100%	100%
吹奏楽団定期演奏会開催	回	目標	1	1	1
		実績	1	1	1
		達成率	100%	100%	100%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
年1回開催される定期演奏会を支援するため、補助金を交付する。 「光のコンサート」特別ゲスト等による親子を対象としたコンサートを実施する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	293	307	307
計	293	307	307

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市の芸術・文化振興のため、音楽団体に助成を行うほか、音楽鑑賞会を開催することは必要である。
活動内容の有効性	市民の間では定着したイベントとなっており、有効である。
執行方法の効率性	助成金については最低限の額であり、効率性は高い。
公平性	市の代表的な音楽団体への助成である。全市民を対象としており、公平である。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	A	市の芸術・文化の振興のため、必要な事業である。 毎年一流の音楽家を迎え、吹奏楽部の部員向けのクリニックや親子対象の音楽鑑賞会を開催しており、豊かな心を育む観点から重要な事業である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	音楽鑑賞会の広報活動を工夫しながら、事業を継続していく。
------------	------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		音楽教室開催費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	市内小・中学生
---------	---------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
児童生徒が専門家の演奏を聞いたり、指導を受けることにより、演奏技術の向上や豊かな心を育むことを目的として、各小中学校において講師を招き音楽教室を開催する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
音楽教室参加者数	人	目標	900	900	900
		実績	866	960	503
		達成率	96%	107%	56%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
小学校においては、児童を対象とした音楽鑑賞会、実技指導を実施する。中学校においては、吹奏楽部員を対象とした講習会を実施する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	270	270	270
計	270	270	270

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	音楽を通して子どもの豊かな心を育むため、必要である。
活動内容の有効性	大会で優秀な成績を収めるなど、成果も上がっている。
執行方法の効率性	最低限の講師謝礼のみの予算であり、効率性は高い。
公平性	市内全小中学校で実施しており、公平である。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	A	滑川中学校が県代表になるなど、成果も上がっている。また、児童生徒が音楽を通して豊かな心を育む観点から、重要な事業である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	講師が固定化されてきており、様々なジャンルの音楽を鑑賞できるよう工夫しながら、事業を継続していく。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		青少年健全育成事業		担当部署		教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項	04	社会教育費
	010103				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	児童、生徒、保護者、地域の人
---------	----------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
補導センター、青少年育成滑川市民会議などの団体と連携して青少年の健全育成を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
補導員活動日数(延べ)	日	目標	170	170	200
		実績	157	154	205
		達成率	92%	91%	103%
ボランティア体験作文応募数	作品	目標	100	100	100
		実績	107	80	36
		達成率	107%	80%	36%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
少年補導センターは直接取り締まるのではなく、抑止力として街頭の巡回を行っている。また、青少年の心の育成の一環として、「ボランティア体験作文」の募集・発表を行っている。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	288	312	326
計	288	312	326

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、必要な事業である。
活動内容の有効性	青少年の健全育成は市にとって重要な課題であり、有効な事業である。
執行方法の効率性	費用対効果の面では問題はないが、他の似たような団体との統合などを検討する余地はある。
公平性	市内全域を対象とした活動をしており、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	B	青少年育成の観点から、少ない費用で幅広く活動を行っている。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	隣接市町村とのネットワーク化を図り、一体的に活動を推進していく必要がある。
------------	---------------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		ディスカバー滑川ふれあい事業		担当部署		教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項	04	社会教育費
	010103				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	小・中学生
---------	-------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
ふるさと滑川を普段とは異なった視点で見つめることにより、郷土愛の涵養や、主体的に判断し行動する能力を身につけてもらうことを目的とする。 H29年度より郷土偉人顕彰事業を統合し、総合的に盛り込み効率よく行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
ふるさと探検事業の参加者数	人	目標	100	100	100
		実績	98	71	91
		達成率	98%	71%	91%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①ふるさと探検事業では、普段とは異なった視点で滑川市を見つめることにより、滑川市を“再発見”してもらえるような事業を開催する。 ②学校ボランティア事業では、各種ボランティアを体験することで、地元の方々との交流や相手を思いやる心を育むことを目指す。 ③子どもサミット事業においては、日頃のボランティアの成果の発表や、数年後の本市の在り方や改善点等話し合うことにより、滑川市をより良くするための主体的な観点を養う。 ④郷土偉人の業績を学び郷土愛を育む。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	655	791	797
計	655	791	797

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	ふるさと滑川を愛する心を涵養するために必要である。
活動内容の有効性	事業の目的は達成できているが、より効果の高い内容になるよう改善すべき点がある。
執行方法の効率性	市主催で学校、関係機関の協力を得て行っている。
公平性	市内小中学生すべてを対象としている。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	申込が多数のイベントについては、回数や会場等の検討が必要である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	参加者の意見を参考に、毎年新たな視点が盛り込めるよう、内容の充実を図っていく。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		男女共同参画推進事業費		担当部署	教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計 01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款 10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項 04 社会教育費
	010103				目 01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
滑川市男女共同参画計画に基づき、「ともに認め合い、支え合う、ひかり輝く社会の実現」を総合目標とし、男女共同参画推進事業を実施する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
公開講座参加者数	人	目標	120	120	120
		実績	120	130	280
		達成率	100%	108%	233%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①男女共同参画に対する正しい理解と認識を深めるため、男女共同参画推進員による啓発活動を実施する。
②男女共同参画に関する意識啓発と計画の周知のため、男女共同参画公開講座を実施する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	854	941	1,206
計	854	941	1,206

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	男女共同参画の推進は、行政が主導して実施すべきである。
活動内容の有効性	社会情勢の変化等に対応し、活動内容を検討していく必要がある。
執行方法の効率性	推進委員会へ委託しており、効率性は高い。
公平性	市民すべてを対象とした事業であり、公平である。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	社会情勢に対応した事業となるよう、活動内容の工夫、検討が必要である。第3次計画を策定するにあたって実施した意識調査の結果を基礎資料とし、新しい計画に反映させていく。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	今後も、様々な機会を捉え、推進活動を展開していく。活動内容については、固定化しているので社会情勢に対応したものとなるよう、推進委員会に対して、取り組み例などの情報提供、提案、相談などのサポートが必要である。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		学校文化施設開放事業	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算 費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民の生涯学習活動の支援を行うため、生涯学習センター・地域交流センターの開放を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
生涯学習センター利用者数(滑川中学校内)	人	目標	3000	3000	3000
		実績	3118	2883	2946
		達成率	104%	96%	98%
地域交流センター利用者数(早月中学校内)	人	目標	1600	2000	2000
		実績	1518	1958	2687
		達成率	95%	98%	134%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
学校の使用していない夜間、休日を開放するため、シルバー人材センターの開放員に管理を委託している。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	329	349	355
計	329	349	355

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	生涯学習の振興のため、施設の有効活用はニーズに合っており、必要性も高い。
活動内容の有効性	利用が無料であり利用希望者は多いが、学校の利用が優先であるため、これ以上の時間の延長は難しい。
執行方法の効率性	事業費は開放員への委託料だけであり、最小限のコストに抑えられている。
公平性	生涯学習のための施設であり、生涯学習団体と、そうでない団体の明確な線引きを行う必要がある。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	生涯学習センター、地域交流センターの空き時間を有効活用しており、市民のニーズにも応えている。成果指標が伸びている。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	生涯学習のための施設という趣旨を明確にして利用促進を図っていく。
------------	----------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		社会教育活動総合事業費		担当部署	教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計 01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款 10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項 04 社会教育費
	010103				目 01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
生涯学習センターを市民の生涯学習活性化のための中核として機能させ、更なる地域活性化の促進と生涯学習の振興を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
ふるさと市民大学講座受講者数	人	目標	200	200	200
		実績	191	118	163
		達成率	96%	59%	82%
福寿大学受講者数	人	目標	130	130	130
		実績	132	131	131
		達成率	102%	101%	101%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
① 各分野で活躍中の郷土ゆかりの講師を招き、市民が最新情報にふれることができ、郷土愛を育むことができる講座を開催する。 ② 60歳以上の方々がふれあいを通し、自らの生活の中に生きがいを見いだせる教養講座やレクリエーション教室、野外活動教室等を開催する。 ③ 一般市民向けに書道、油絵、陶芸、ちぎり絵、詩吟の5つの実技講座を開催する。 ④ 生涯学習センターで一般市民向けの各種の教養講座を開催する

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	1,350	1,620	1,643
計	1,350	1,620	1,643

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	どの事業も生涯学習の充実のために必要である。
活動内容の有効性	いつでも、どこでも、誰もが自ら気軽に学べるよう、各世代に対応した各種講演会や講座を開催したり、情報紙を定期的に発行したりしており、有効である。
執行方法の効率性	最低限の講師謝礼と印刷費等の予算であり、効率性は高い。
公平性	内容に応じて特定の年齢や広く市民を対象としている。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	B	参加者の声を聞くと、概ね事業の目標は達成できていると考えられるが、開催日時や内容については検討すべき余地がある。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	事業終了後、アンケートを実施するなど、参加者の意見を参考に事業の見直しを行う。また、PRの仕方も工夫していく。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		心豊かなまちづくり推進事業費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	02 公民館費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
<p>①地域の絆や教育力の向上を図ることを目的として、地域の人材を活かした多世代のふれあい活動及び各種教養教室を各地区公民館において実施する。</p> <p>②ふるさと滑川の自然・歴史・文化に対する理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的に、「ふるさと講座」を実施する。また、様々な年代を対象とすることにより世代間交流を推進する。</p>

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
公民館利用者数	人	目標	70,000	80,000	80,000
		実績	77,408	94,948	99,695
		達成率	111%	119%	125%
「ふるさと講座」参加者数	人	目標	1,000	1,000	1,000
		実績	1,391	1,480	1,717
		達成率	139%	148%	172%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
<p>①地区公民館において、多世代のふれあい活動及び各種教養教室を実施する。</p> <p>②各地区公民館において、地元の自然、文化、歴史を学ぶ「ふるさと講座」を実施する。</p>

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	1,350	1,350	1,350
計	1,350	1,350	1,350

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	地域の絆づくり、地域コミュニティの形成、ふるさと教育は近年、特に重要視されており、必要な事業である。
活動内容の有効性	参加者のニーズを汲み取りながら、事業を実施しており、有効である。
執行方法の効率性	地区公民館へ委託しており、効率性は高い。
公平性	全地区住民を対象としており、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	地域の絆づくり、地域コミュニティの活性化、ふるさとへの誇りと愛着を育むため、必要な事業である。各地区公民館では、ネプタ流しや七夕まつり、オショウライといった地元の伝統文化を学ぶふるさと教育、地域の人材を活用した三世代餅つき体験や農業体験、盆踊りなどの活動を積極的に行い、ふるさと滑川に対する理解を深めている。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	内容、参加者が固定化しないよう工夫し、今後も事業を継続していく。
------------	----------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		地区公民館活動推進費	担当部署	教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	社会教育費
	010103			目	公民館費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
地区公民館を中心とした地域コミュニティの形成を推進するため、多世代のふれあい活動、各種講座等の公民館活動を支援する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
地区公民館利用者数	人	目標	70,000	80,000	80,000
		実績	77,408	94,948	99,695
		達成率	111%	119%	125%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①地区公民館において、公民館まつり、住民運動会、各種レクリエーション、講座等の実施
②地区公民館の管理にかかる費用の支出
③地区公民館実施事業参加者及び公民館職員に対する保険の加入

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	10,716	10,532	10,893
計	10,716	10,532	10,893

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	地区公民館と中心としたコミュニティの形成は近年重要視されており、必要である。
活動内容の有効性	参加者のニーズに応じた内容となるよう心掛けており、有効である。
執行方法の効率性	コミュニティづくり推進事業及び保険加入については地区公民館へ委託しており、効率性は高い。
公平性	全地区住民を対象としており、公平である。

総合評価

評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	A 地域コミュニティの推進、活性化のため必要な事業である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	参加者、内容が固定化しないよう工夫しながら、事業を継続していく。
------------	----------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		地区公民館整備事業	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	02 公民館費

事業の対象

誰・何に対して	各地区公民館
---------	--------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
地区公民館の整備に努め、快適に利用して頂けるよう、整備・修繕を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
要望件数(目標)に対し実施した件数(実績)	目標	25	40	40	
	実績	24	34	21	
	達成率	96%	85%	53%	
	目標				
	実績				
	達成率				

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
公民館より要望を聞きとり、順次修繕を行う。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	12,598	25,876	5,261
計	12,598	25,876	5,261

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	地区公民館を安全・正常に利用して頂くために必要である
活動内容の有効性	施設が老朽化しているなかで、施設を維持管理するためには、非常に有効である
執行方法の効率性	国、県の補助事業を活用するなどして、コスト削減をすることは可能である
公平性	施設を利用するすべての方に受益がある

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	各地区公民館の老朽化をふまえ、限られた予算の中で緊急性の高いものから修繕を行うことや、年次計画を立て古くなった設備を更新できるような確かな予算要求を行い、安全な施設管理に努めるべきである。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	施設点検や公民館からの聞き取りを元に、設備等に異常がないかを確認し、大きなトラブルが起こらないよう安全な館の運営ができるよう、配慮を怠らないようにする。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		青志会館管理運営費		担当部署	教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10 教育費
	小分類	4 青少年健全育成の推進			項	04 社会教育費
	010104				目	05 社会教育施設費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
<p>青志会館は、市民が仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学ぶための施設であり、また学童保育の実施場所となっている。たくさんの方々に利用していただけるよう施設の整備や活動の支援を行う。</p>

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
利用者数	人	目標	7000	18000	18000
		実績	6500	17703	15869
		達成率	93%	98%	88%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
<p>従来からの抹茶、生け花、着付け、空手等各種教室、サークルの運営は継続し、新規の教室・サークルの募集を随時行っていく。イベントでの調理室、和室等の利用も周知する。</p>

(単位:千円)

決算額				
	27年度	28年度	29年度	
直接事業費	4,243	4,476	4,581	
整備費				
計	4,243	4,476	4,581	

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	仕事の後や余暇を利用して趣味や娯楽を楽しんだり、必要な知識や技術を学ぶことができる施設のため必要である。
活動内容の有効性	利用者のニーズに応じた活動に努めているので有効である。
執行方法の効率性	管理・運営の外部委託、指定管理などの検討の余地がある。
公平性	幅広い層に利用いただける施設となっている。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	幅広い層に利用される施設であり、学童保育も実施されていることから、今後も適正な施設の維持管理に努める必要がある。既存教室以外の利用についても、一層周知を続けていく必要がある。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	施設利用のPRを工夫し、更なる利用促進を図る。
------------	-------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		働く婦人の家管理運営費	担当部署		教育委員会 生涯学習課
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算 費 目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	05 社会教育施設費

事業の対象

誰・何に対して	働く女性及び勤労者家庭等の主婦
---------	-----------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
必要な知識・技能の取得や教養・憩い・レクリエーション等について場と機会を提供し、生活の向上や福祉の増進を図る。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
働く婦人の家利用者数	人	目標	15,000	15,000	15,000
		実績	11,742	11,718	12,143
		達成率	78%	78%	81%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
フォークダンス、コーラス、手芸等の各種講座を開催する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	7,067	10,637	6,475
計	7,067	10,637	6,475

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	毎年様々な教室を開催し、利用者も依然多く、必要性は高い。
活動内容の有効性	受講者のニーズに応じた講座内容となるよう心掛けており、有効である。
執行方法の効率性	利用者が多く、他の施設との統合は不可能である。
公平性	男性の利用が可能な講座もあり、公平であると思われる。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	教養教室の受講生も多く、生涯学習の推進のために、必要な事業である。学び続けたい意欲のある方の育成・自主グループの活動も熱心に行われ、活動の場としての施設利用も盛んに行われている。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	受講者のニーズを汲み取りながら、今後も事業を継続していく。
------------	-------------------------------

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		図書館運営費		担当部署		教育委員会 生涯学習課(図書館)	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項	04	社会教育費
	010103				目	03	図書館費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
より利用しやすく親しみやすい図書館を目指し、利用者(来館者)の増加を図るとともに市民の生涯学習を推進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)				
指標名	単位	27年度	28年度	29年度
市民1人当たりの貸出冊数(年間)	冊/人	目標 6	6	6
		実績 4.92	4.96	4.84
		達成率 82%	83%	81%
来館者数	人	目標 150,000	150,000	150,000
		実績 98,488	136,416	137,194
		達成率 66%	91%	91%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
平成28年度に開設した喫茶コーナーについて周知するなどして、図書館利用者(来館者)の増加を図る。蔵書の増強や郷土資料の積極的な収集・公開を進めるほか、レファレンスサービスの認知度を高め、利便性の向上に努める。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	10,552	12,996	16,788
計	10,552	12,996	16,788

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	図書館は社会教育機関という法的位置づけがされており、市民の生涯学習や情報収集の場として必要である。
活動内容の有効性	市民の生涯学習を支援するために有効である。
執行方法の効率性	ボランティアの活用など、コスト削減を図りながら各種サービスを提供している。
公平性	誰でも無料で利用することができ、公平である。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	生涯学習の推進のために必要不可欠な事業である。来館者数は増加しているが、市民1人当たりの貸出冊数は前年より微減となった。平成32年度までに年間10冊/人という高い目標を設定しており、目標の達成のためには利用者(来館者)を増やすためのさらなる事業展開や、学校図書館など関係機関との連携が必要である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	ミニコンサートの開催などを通じて喫茶コーナーの積極的なPRを行い、より気軽に利用できる図書館を目指す。今後も利用者(来館者)の要望に応え、生涯学習の拠点として各種資料や情報を提供する。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		子ども図書館管理運営事業		担当部署	教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進			項	04 社会教育費
	010103				目	03 図書館費

事業の対象

誰・何に対して	子どもとその保護者
---------	-----------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
子ども一人ひとりの個性を伸ばし感性を磨くとともに、生きる力や創造力を高めるため、学校と連携し子どもの読書活動を推進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
市民1人当たりの貸出冊数(年間)	冊/人	目標	6	6	6
		実績	4.92	4.92	4.84
		達成率	82%	82%	81%
来館者数	人	目標	30,000	30,000	30,000
		実績	28,213	30,655	36,166
		達成率	94%	102%	121%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
子ども読書活動推進計画(H30～H34)を策定する。文科省事業(学校司書能力向上等調査研究事業)に取り組み朝読用図書の出出を試行する。本と親しむきっかけとなるよう、絵本ライブや各種ワークショップ、おたのしみ会などを開催する。

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費		8,631	7,503
計		8,631	7,503

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	子どもの読書活動の推進のために必要な事業である。
活動内容の有効性	子育て支援の面からも有効である。
執行方法の効率性	ボランティアを活用するなど最低限の額で運営しており、効率性は高い。
公平性	市内すべての子どもと保護者を対象としており、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	文科省委託事業実施や子ども読書活動推進計画策定により、市内小学校(寺家、田中、南部)へ朝読用図書の出出を試行し、本格実施に繋がった。今後も子どもが読書を通じて、豊かな感受性や探究心を育むために必要な事業である。さらなる読書活動の推進のためには、学校図書館との連携が必要不可欠であるため、事業内容を適時見直す必要がある。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	児童館、子育て支援センター、学校(司書教諭・学校司書)等と連携をとりながら、事業を展開する。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名	本とのふれあい推進事業		担当部署	教育委員会 生涯学習課	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元氣	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	3 生涯学習の推進		項	04 社会教育費
	010103			目	03 図書館費

事業の対象

誰・何に対して	子どもとその保護者
---------	-----------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
「子ども図書館」を子どもと親が集い交流する場とし、本を通じた子育て支援事業を実施することで、安心して子どもを産み育てられ、また子どもが心身ともに健全に育つ環境づくりを推進する。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
ふれあいあそび実施回数	回	目標	48	49	50
		実績	48	49	50
		達成率	100%	100%	100%
子育て支援講座参加者数	人	目標	200	200	250
		実績	303	303	371
		達成率	152%	152%	148%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①おはなし会などを継続的に実施して、親子が気軽に集える場をつくる。 ②ブックスタート事業として、市内のすべての赤ちゃんに絵本をプレゼント。 ③子ども図書館においてベビーマッサージ教室やリミック教室などの子育て支援事業を実施。 ④職員能力向上のためピクेशन事業を活用し、大島絵本館の協力を得て幼稚園等へ出張お話し会を実施(10回)した。

(単位:千円)

決算額				
	27年度	28年度	29年度	
直接事業費	2,568	1,523	589	
計	2,568	1,523	589	

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	子どもの健全な育成のために必要な事業である。
活動内容の有効性	市内の子育て関連施設等で類似の子育て支援事業を実施しているが、市民のニーズは高い。
執行方法の効率性	保育士(職員)が講師になるなど、最低限の額で実施しており、効率性は高い。
公平性	市内すべての子どもと保護者を対象としており、公平である。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	A	今後、幼稚園だけでなく小学校へも出張お話し会を実施することで、子どもが健やかに育つ環境づくりや、本を通じた子育て支援のために必要な事業である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	児童館、子育て支援センター等と連携をとりながら、事業を展開するとともに、子育て支援について、利用者のニーズを汲みながら、検討・改善していく。日頃から、来館者に声掛けを行うなど、コミュニケーションを図り、またイベントについても口頭で呼びかけを行っていく。 また、イベントだけでなく、今後も幼稚園だけでなく小学校へ出張お話し会を実施することで、子ども図書館の利用促進を図り、将来を担う子ども達への読書活動を推進する。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		俳句教室開設費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	小・中学生及び一般市民
---------	-------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
俳句文芸の継承と振興を図り、香り高い文化のまちづくりを目指す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
俳句教室参加者数	人	目標	30	30	30
		実績	70	57	38
		達成率	233%	190%	127%
俳句ポスト投句数	句	目標	5,000	5,000	5,000
		実績	8,227	7,662	6,931
		達成率	165%	153%	139%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①俳句大会の開催 俳句の公募 講演会の開催
②小・中学生俳句教室の開催
③俳句ポストの設置 優秀句作者の表彰

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	182	90	92
計	182	90	92

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市が主体となり、地域文化を継承・振興していくことが必要である。
活動内容の有効性	事業や活動の内容については適切であるが、より幅広い活動を展開することも可能と思われる。
執行方法の効率性	事務改善によって従事時間の縮減を図ることは可能であると思われる。
公平性	多少の偏りはあるが俳句分野の特性から見れば、適切であると思われる。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	B	俳句文芸の継承・振興のため、今後も継続して事業を実施していくことが、「香り高い文化のまちづくり」につながると考えられる。特に毎月の広報に掲載している俳句ポストも県内では他にない取り組みなので今後も継続していきたい。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	俳句人口の振興拡大のため、次世代が参加できる事業の見直しを行い、効率的な事業展開を図る。俳句教室の参加者が年々減ってきているので、周知方法などを見直し、新たな児童・生徒への働きかけを図る必要がある。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		市美術展開催費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
広く市民の教養文化の向上に供し、香り高い文化のまちづくりを目指す。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
入場者数	人	目標	800	800	800
		実績	854	680	721
		達成率	107%	85%	90%
出品者数	人	目標	150	150	150
		実績	149	143	128
		達成率	99%	95%	85%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
「滑川市美術展」の開催 市美術展運営委員会の開催 市美術展審査会の開催 市展講評会の開催

(単位:千円)

決算額				
	27年度	28年度	29年度	
直接事業費	569	554	581	
計	569	554	581	

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市民の情操を豊かに育てるとともに、優秀作家を育成し、本市文化の向上を図ることは、市が主体となって継続的に行う必要がある。
活動内容の有効性	事業や活動の内容については適切であるが、部門によっては出品者の減少・高齢化が見られ、新たな人材の育成等、検討すべき点がある。
執行方法の効率性	事務改善によって従事時間の縮減を図ることは可能であると考ええる。
公平性	芸術・文化面の市民への成果還元は課題である。

総合評価

評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B 「香り高い文化のまちづくり」を標榜するなか、市民芸術の創作発表・鑑賞の場を継続的に提供することは大切である。身近にある芸術に触れる機会を提供することは、本市の文化力の向上にもつながると考えられる。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	優秀作家の育成を図ると同時に、出品者数の減少を防ぐため、若年層をはじめとした新たな市民への働きかけを図る必要がある。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		文化財保存調査費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民共有の財産である文化財を永く保存、継承していくとともに、新たな文化財を掘り起し、市民に周知積極的に活用していく。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
指定文化財等件数	件	目標	38	43	43
		実績	42	43	45
		達成率	111%	100%	105%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①市有文化財の保存・管理 史跡・天然記念物
②市民への文化財の啓発及び活用
③開発に伴う埋蔵文化財の調査
④古建築や山岳遺跡調査による文化財の掘り起し
⑤立山・黒部ジオパークの周知

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	1,292	1,646	1,030
計	1,292	1,646	1,030

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	文化財は市民共有の財産であり、永く保存していくために市が主体的に関わることは妥当である。さらに文化財として、価値のあるものを発掘していくことが必要である。
活動内容の有効性	文化財の保存や現状維持のための活動が中心であるが、新たな文化財の掘り起しも進めている。
執行方法の効率性	文化財の保存には所在地域の協力が不可欠であることも踏まえて、適切な執行を行っている。
公平性	現状では公平であり、適切と思われる。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	文化財は地域にとってかけがいのないアイデンティティーの一つであり、公共的な視点から保存していくことが必要である。そのためには文化財を広く市民に周知し、有効に活用していくことが求められる。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	新たな文化財の掘り起しや、既存の文化財の再調査等により、市民の文化財への認識を高めるとともに、その保存について啓発していく。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		ネブタ流し継承事業費		担当部署	博物館
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計 01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款 10 教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項 04 社会教育費
	010106				目 01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民、ネブタ流し保存会及び後継者(小学生)
---------	------------------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
重要無形民俗文化財の保存継承のために、市民と行政が一体となって方策を講じ、推進していく。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
研修会合出席者数	人	目標	35	35	35
		実績	95	12	25
		達成率	271%	34%	71%
寺家小学校児童参加者数	人	目標	16	16	16
		実績	5	17	21
		達成率	31%	106%	131%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①保存継承団体の組織強化 ・主体的活動の運営支援と補助金の交付 ・ネブタ流し参加団体への新規参加促進
②後継者育成 ・寺家小学校での製作伝習活動及び学習会の開催支援
③団体間の交流 ・研修会の開催(情報交換会の実施)
④ネブタ流し材料の確保と備蓄 ・特にワラの確保と保存

(単位:千円)

決算額	27年度	28年度	29年度
直接事業費	241	266	287
計	241	266	287

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	国指定文化財であるネブタ流しを後世へ守り伝えるため、保存会を支援していく必要がある。
活動内容の有効性	地域の民俗行事であり、市としては側面から支援している。
執行方法の効率性	保存会組織を自主運営していくことにより、行政に依存する割合を軽減することが可能になるとされる。
公平性	参加団体が増加しているため、保存会の中から、助成金の各町内会への分配方法について検討すべきとの声も一部ある。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	保存会の自主運営は、現段階では困難であるが、ネブタ流しの国指定重要無形民俗文化財としての価値は高く、今後も保存継承していくために、市として当面伝承活動や保存会の支援は必要である。近年は材料のワラ材の確保が課題になっている。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	参加者(団体)が増加するよう周知活動をすすめることが、長期的にみて保存会の体制強化や保存伝承活動の継続にもつながるものと思われる。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		郷土芸能活性化事業費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民、保存団体及び後継者(小学生)
---------	--------------------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
地域に伝承される郷土芸能育成保存の姿勢から、関係団体と連携を図り、行政が一体となり、保存伝承の方策を講じる。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
舞踊の伝習会	回	目標	9	9	9
		実績	9	9	9
		達成率	100%	100%	100%
発表会の実施	回	目標	8	8	8
		実績	9	11	12
		達成率	138%	113%	150%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①保存継承団体の運営支援 補助金の交付
②後継者育成 小学生対象の伝習活動の実施
③発表会の実施支援

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	838	806	685
計	764	838	685

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	郷土芸能の保存に際しては継続することに意義があることから必要性は高い。
活動内容の有効性	保存伝承のためにも、多くの市民に認知してもらう方策を検討すべきと考えている。
執行方法の効率性	郷土芸能の伝承方法として小学生への指導は効率的である。
公平性	各保存会会員の自己負担に依存しない運営を検討すべきと考える。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	B	地域に根ざす郷土芸能の保存・活性化は、市の責務であり、絶えることなく次世代に継承するため、積極的に支援していくべきである。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	平成29年度は、海外派遣事業の記念式典で新川古代神踊りを発表した。郷土芸能は、地域紹介にも欠かせないものであることから、一層の支援が必要である。
------------	--

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		博物館管理費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民、博物館施設
---------	-----------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民が安全かつ快適に博物館施設を利用できるようにする。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名		単位	27年度	28年度	29年度
利用者数	目標	人	15,000	17,100	17,200
	実績		16,546	11,214	15,462
	達成率		110%	66%	90%
	目標				
	実績				
	達成率				

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①施設の維持 電気・水道・燃料等 設備の保守点検等
②不具合箇所の修繕

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	11,526	13,936	10,752
計	11,526	13,936	10,752

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	本市の芸術文化活動を振興していく上で拠点となる施設であり、その維持管理業務は不可欠である。
活動内容の有効性	交通手段が限られていることから事業の必要等を更に広める必要がある。
執行方法の効率性	現在委託可能な業務はすべて業務委託を行って効率化を図っている。
公平性	公平であり、適切であると思われる。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	現状では、施設面の改装も必要であるが、建物の経過年数が25年以上経過していることから、建物内の設備に大幅な改修が必要になってきている(特に企画展示室などの空調が半分以上使用不可となっている)。現在は最低限の修繕のみ行っている状況である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	今後施設の老朽化に伴い、不具合箇所が多く出てきており、第1常設展示室を含め、大規模改修が必要となっている。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		博物館運営費	担当部署		博物館
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興		項	04 社会教育費
	010106			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民の芸術・文化活動の成果を発表する機会の提供及び博物館の展示活動以外の事業(研究調査・普及・広報等)を行う。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
入場者数	人	目標	5,000	5,000	5,000
		実績	8,535	8,192	8,230
		達成率	171%	164%	165%
博物館だよりの発行	部	目標	400	400	400
		実績	400	400	400
		達成率	100%	100%	100%

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①各種共催展等の開催 ②博物館活動の広報 博物館だよりの発行 博物館HPの運営 ③博物館資料の受入 寄贈及び購入 ④夕焼けコンサートの開催

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	1,180	1,410	1,090
計	1,180	1,410	1,090

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市民の芸術・文化活動の成果を発表する場としてニーズがある。また、地域文化に対する博物館の調査研究活動は継続的に行う必要がある。
活動内容の有効性	各連盟展等の入場者数はある程度確保できているが、幅広い市民の来場を促す必要がある。
執行方法の効率性	現状では、ある程度効率的な運営ができていると考えられる。
公平性	博物館活動への興味関心が薄い市民や児童・生徒に対する成果還元に近年努めている。

総合評価

総合評価と所見	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
	B	博物館活動は地域文化のアイデンティティを担保するためのものであり、継続的な事業展開が不可欠である。ただし、事業への参加・理解を図るための広報活動や周知を積極的に行う必要がある。夕焼けコンサートについては近年団体からの出演希望が少なく、定期的な開催が見込めなくなっていることから開催について見直す必要がある。企画展の入場者数が見込みより少なかったため、今後、改善を要する。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	市民ニーズを的確に汲み取り、次世代の来館意欲も高める企画や広報の手段を検討していく必要がある。夕焼けコンサートについては他のイベント行事と出演者が重なってきていることから、出演団体の見直しや新規団体の声掛けなどを音楽協会に確認し、コンサートの開催については再確認する必要がある。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		展覧会等開催費		担当部署		博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気		予算費目	会計	01	一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり			款	10	教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興			項	04	社会教育費
	010106				目	01	社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	全市民
---------	-----

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
市民の郷土や芸術・文化活動に対する関心と理解を深めるため、郷土資料や優れた芸術・文化に触れる機会を設ける。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位	27年度	28年度	29年度	
企画展入場者数	人	目標	2,500	2,500	8,000
		実績	5,907	3,022	4,315
		達成率	236%	121%	54%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①「追悼・郷倉和子展-梅花から悠久なるものとの対話へ」の開催 図録発行及び記念講演会、展示解説会等の開催
②「新収蔵品展」の開催
③「友の会愛蔵品展」の開催
④「滑川の製鉄遺跡展」の開催 リーフレット発行及び記念講演会等の開催
⑤「銅像・顕彰碑に見る滑川人物伝」の開催 リーフレット発行

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	2,398	3,022	5,293
計	2,398	3,022	5,293

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市が主体となって、継続的に優れた芸術作品や地域文化を紹介していくことが必要である。
活動内容の有効性	事業や活動の内容については適切であり、順調に推移しているが、複数年にわたる展示計画や広報方法に課題を残している。
執行方法の効率性	予算執行において、弾力的な枠内対応とすることにより、効率的な事業遂行が可能と思われる。
公平性	公平であり、適切であると思われる。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	市民ニーズを汲み取り、多くの市民に芸術・地域文化に触れる機会を提供していく必要がある。一方で、新たな地域文化の掘り起し等、調査・研究機能の向上も欠くことはできないと思われる。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	複数年にわたる事業計画を立案し、調査・準備期間を確保できるような予算措置や事務分担の見直しを図る。入館者数と調査研究機能のバランスを保つために、効果的な広報・周知の在り方を検討する。
------------	---

【教育委員会事業評価シート】

事務事業名		子ども科学教室開催費	担当部署	博物館	
総合計画	大分類	第1章 ひとが元気	予算費目	会計	01 一般会計
	中分類	第1節 教育と文化のまちづくり		款	10 教育費
	小分類	6 芸術・文化の振興		項	04 社会教育費
	010106			目	01 社会教育総務費

事業の対象

誰・何に対して	小・中学生
---------	-------

事業の目的と達成度

意図(どのようにしたいか)
子どもの科学する心を育むため、自然観察やモノづくりを体験する機会を設ける。

成果指標(どの程度意図が達成されたか)					
指標名	単位		27年度	28年度	29年度
教室参加者数	人	目標	150	150	250
		実績	260	405	252
		達成率	173%	270%	101%
		目標			
		実績			
		達成率			

事業の内容と活動量

手段(どうすることによって)
①自然観察教室の開催 植物探検、川であそぼう、化石教室の開催
②天文教室の開催 天文教室、ペルセウス座流星群観察会の開催
③ロボットセミナーの開催(補助)

(単位:千円)

決算額			
	27年度	28年度	29年度
直接事業費	311	307	307
計	311	307	307

個別評価

	評価コメント(理由・説明)
事業実施の必要性	市が主体となり、子どもの健全な育成に携わっていくことが必要と思われる。
活動内容の有効性	活動の内容については、参加者のニーズを汲み取り、見直しを検討する必要があると思われる。
執行方法の効率性	現状ではある程度効率的な運営ができていると思われる。
公平性	公平であり、適切であると思われる。

総合評価

	評価	総合コメント(個別評価の結果を踏まえて、事務事業の課題を整理)
総合評価と所見	B	科学・理数教育を推進する本市の取り組みのなか、実地で体験して科学する心を育む機会は貴重であり、かつ必要である。

A:計画どおり事業を進めることが適当である B:事業の進め方などに改善が必要である
C:事業規模・内容・実施主体の見直し、又は事業の統合の検討が必要である D:事業の休・廃止の検討が必要である

改革・改善策

具体的な改革・改善策	内容の拡充や見直しを図りながら、何度でも参加したくなるような仕掛けづくりも必要である。参加者の層を広げるための効果的な周知の方法には検討を要する。
------------	---

